

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

地機【UGC-6】

調査年月日 : 1999年7月12日
 調査地 : ウズンクドゥク (Uzunkuduk) 村
 民族名 : カザフ (Kazakh)



型式 : 地機
 材質 : 木
 概寸 : 全長620cm, 全幅176cm, 全高39cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 輪状整経式
 開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持板可動式

経糸全長 : 2400cm (全周)
 織幅 : 35cm

織り手 : 女性 1人

構成部品

- 経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (杭)
 <図UGC-6-a-1>
 後部経糸保持棒 (横木)
 <図UGC-6-a-2>
- 経糸間接保持具 : 後部経糸保持棒繫留用杭
 (2本) <図UGC-6-a-3>
 後部経糸保持棒繫留用紐
 <図UGC-6-a-4>
- 開口具 : 輪状綜統 (地綜統)
 <図UGC-6-a-5>
 開口保持板<図UGC-6-a-6>
- 綜統固定具 : (2本) <図UGC-6-a-7>
- 緯入具 : 棒状緯入具<図UGC-6-a-8>
- 緯打具 : 刀状緯打具<図UGC-6-a-9>
- 開口部記憶紐 : <図UGC-6-a-10>
- 経糸整列具 : <図UGC-6-a-11>
- その他 : クッション<図UGC-6-a-12>

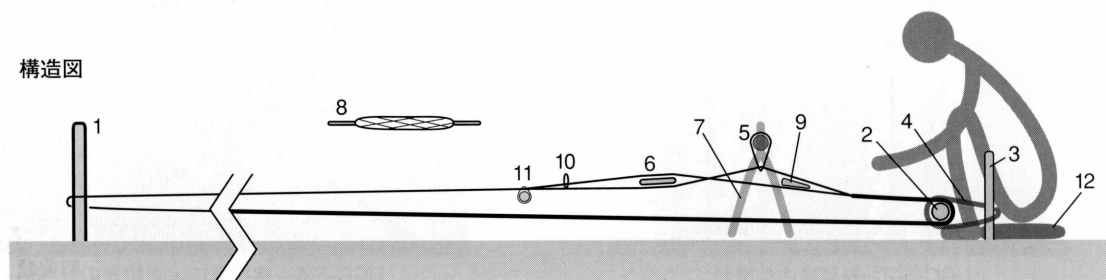
製織中の織物

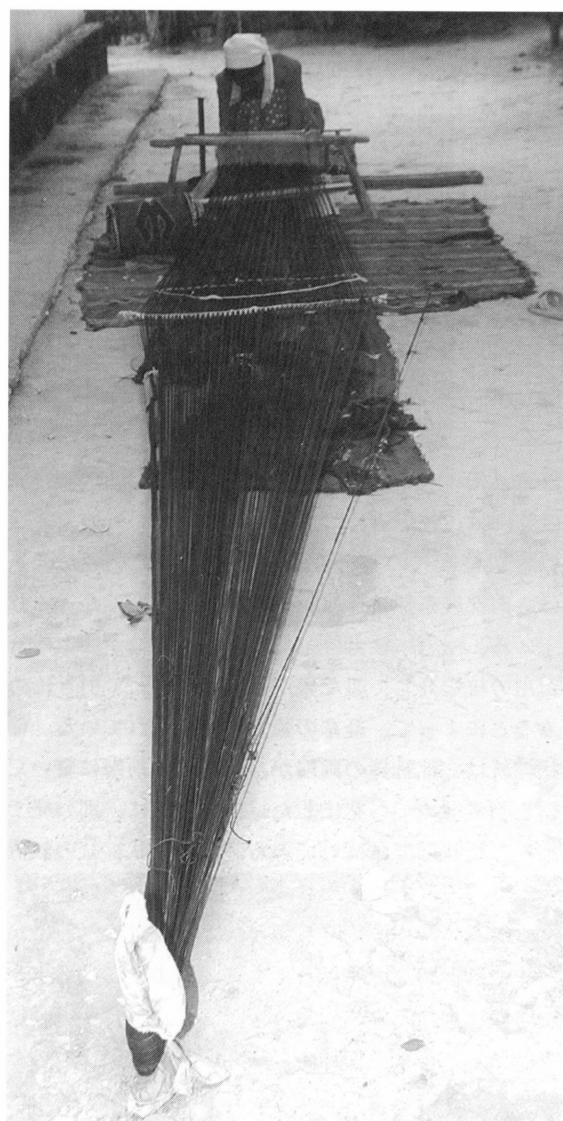
- 織技法 : 緯糸浮織 (縫取織)
- 地組織 : 経畝組織
- 素材 : 羊毛
- 用途 : カーペット, 袋用布地など

調査メモ

機織りは、屋外でおこなわれていた。この地機の後部経糸保持棒は、両端が2本の繫留用の杭を介して紐で繋がれており、紐を引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。輪状綜統の綜統棒の両端には、穴があげられており、逆Y字形の綜統固定具が挿し込まれている。経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合っただけでは口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。緯糸浮織には紋綜統は使われておらず、模様は指で経糸をすくい取り、そのあいだに、赤、黄、緑、白の紋緯を通して織り出されていた。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻きつけた紐で締め付けて固定されている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをするが、織り進むにしたがって、開口具を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織り作業が続けられる。緯入具は棒状、緯打具と経糸すくい板は刀状を呈している。

UGC-6-a 構造図





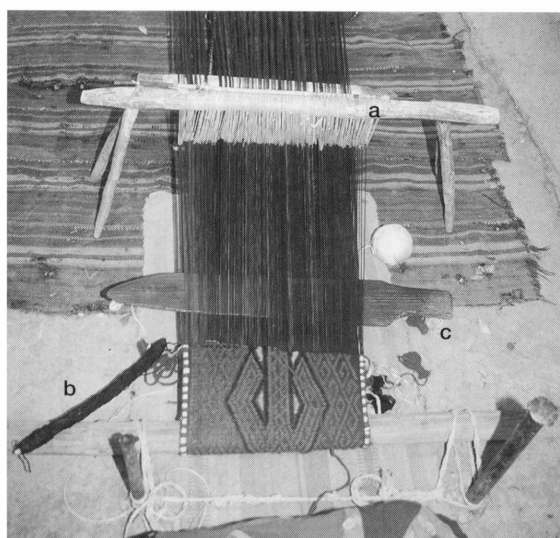
UGC-6-1 全景



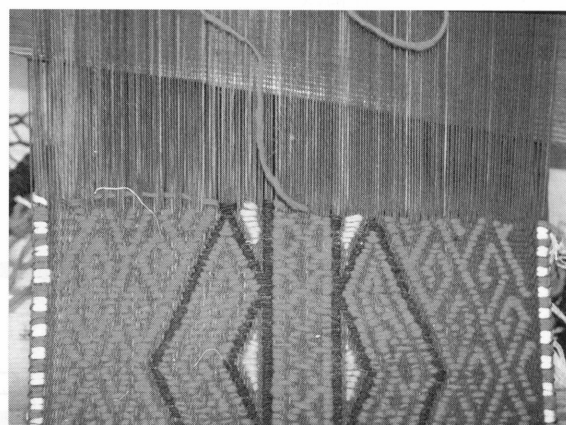
UGC-6-3 開口保持板による開口操作



UGC-6-4 緯糸の打ち込み



UGC-6-2 輪状綜統-a, 緯入具-b, 緯打具-c



UGC-6-5 製織途中の織物

地機【UGJ-1】

調査年月日 : 1999年7月8日
 調査地 : カイラゴチ (Qairagoch) 村
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 地機
 材質 : 木
 鉄 (後部経糸保持棒繫留杭,
 経糸中継棒)

概寸 : 全長1165cm, 全幅103cm, 全高70cm

経糸保持方式 : 固定式

整経方式 : 擬似輪状整経式

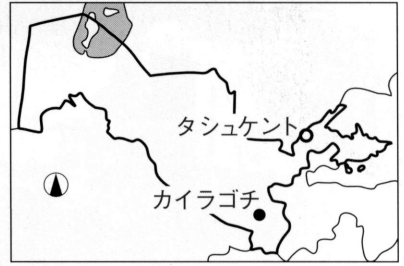
開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持板可動式

構成部品

- 経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (杭)
 <図UGJ-1-a-1>
 後部経糸保持棒 (横木)
 <図UGJ-1-a-2>
- 経糸間接保持具 : 後部経糸保持棒繫留杭
 (2本) <図UGJ-1-a-3>
 後部経糸保持棒繫留用紐
 <図UGJ-1-a-4>
- 経糸中継棒 : <図UGJ-1-a-5>
- 開口具 : 輪状綜統<図UGJ-1-a-6>
 開口保持板<図UGJ-1-a-7>
- 綜統固定具 : 弓状固定具<図UGJ-1-a-8>
- 緯入具 : 棒状緯入具<図UGJ-1-a-9>
- 緯打具 : 刀状緯打具<図UGJ-1-a-10>
- 経糸整列具 : <図UGJ-1-a-11>

製織中の織物

- 織技法 : 経縞織
- 地組織 : 経畝組織
- 素材 : 羊毛
- 用途 : カーペット
- 経糸全長 : 2300cm (全周)



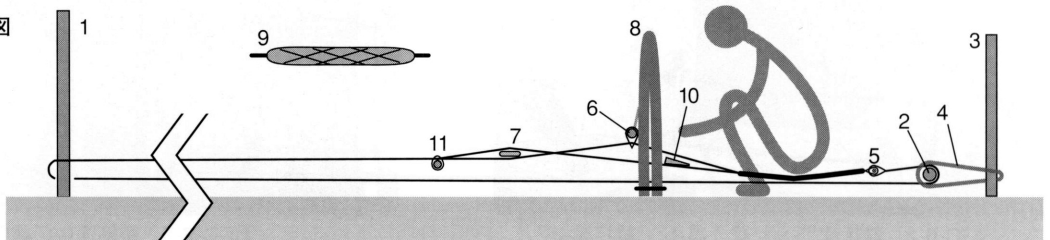
織幅 : 35cm

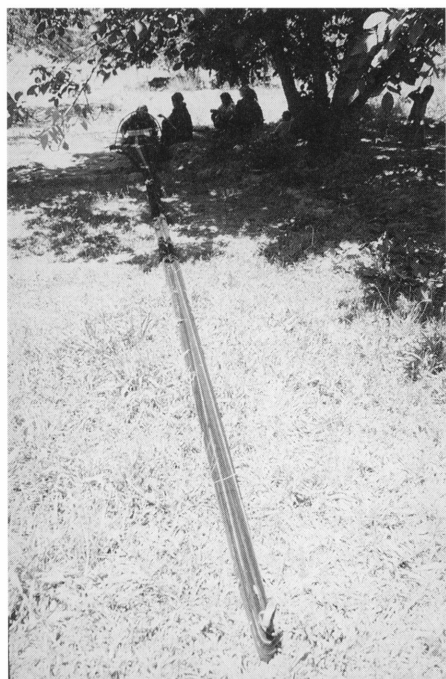
織り手 : 女性1人

調査メモ

機織りは、住居近くの屋外でおこなわれていた。擬似輪状整経式の整経方式によって輪になった経糸は、前部経糸保持棒 (杭) に束ねた状態でかけられている。一方、後部経糸保持棒は、両端が2本の繫留用の杭を介して紐で繋がれており、紐で引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。輪状綜統は、綜統棒の両端が、柳の枝の両端に繫いだ紐を引き締めて弓状にした綜統固定具に、別の紐で吊るした状態で結ばれている。この輪状綜統の設置方式は固定式であるが、緯糸の打ち込みをはじめとする機織りの作業工程では、経糸の動きに連動して、輪状綜統が綜統固定具とともに弾むように動く。経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合っただけでは口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。経糸整列具の棒は経糸の下の方に渡されており、経糸は、棒にらせん状に巻きつけた紐で締め付けて固定されている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをしていたが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織りが続けられた。緯入具は棒状、緯打具は刀状を呈している。

UGJ-1-a 構造図





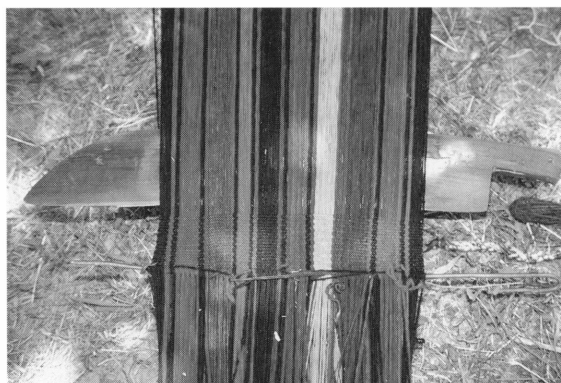
UGJ-1-1 全景



UGJ-1-4 織り手と綜絢固定具



UGJ-1-2 開口保持板による開口



UGJ-1-5 経糸中継棒と緯打具



UGJ-1-3 綜絢による逆開口



UGJ-1-6 後部経糸保持棒部分

杵機【UFF-1】

調査年月日 : 1999年7月5日
 調査地 : トルホル (Torhol) 村
 民族名 : トルクメン (Turkmen)

型式 : 水平式杵機
 材質 : 鉄, 木 (開口保持棒持棒)
 概寸 : 全長400cm, 全幅200cm, 全高30cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経式
 開口具設置方式 : 開口保持棒可動式

構成部品

機杵 : <図UFF-1-a-1>
 経糸保持具 : 前部経糸保持棒<図UFF-1-a-2>
 後部経糸保持棒<図UFF-1-a-3>
 開口具 : 開口保持棒<図UFF-1-a-4>
 緯打具 : 櫛状緯打具<写真UFF-1-2>
 その他 : 座板<図UFF-1-a-5>, 鋏

製織中の織物

織技法 : 綴織
 地組織 : 緯畝組織
 素材 : 木綿 (経糸), 羊毛 (緯糸)
 用途 : カーペット
 経糸全長 : 400cm
 織幅 : 180cm

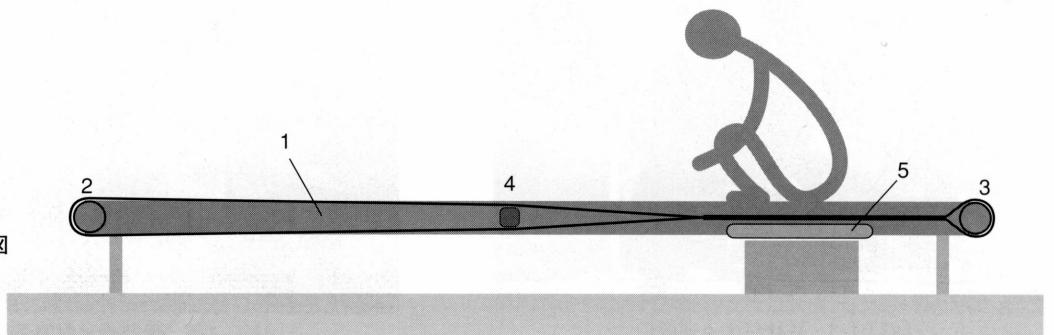
織り手 : 女性 3 人



調査メモ

この杵機は、住居の機織り専用の部屋の床一面に水平に寝かせた状態で設置されていた。ただし、機杵の四隅には脚が付属しており、機杵は床から20cmあまり浮いていた。機織りは3人の女性がおこなっており、織り手は織られたカーペットの上に横一列に並んで座っていたが、彼女たちが座っているカーペットの下には、幅が約30cmの座板がセメントのブロックに乗せて左右に渡されていた。経糸の整経方式は平整経式で、経糸は前部経糸保持棒と後部経糸保持棒に張り渡されていた。開口具としては開口保持棒があるのみで、綜統は使われていない。また、開口保持棒の設置方式は可動式であるが、実際の経糸の開口操作では、開口保持棒はほとんど動かされることなく、経糸の逆開口部に経糸を通すさいには、下糸を1本ずつ左手の指先ですくい取っていた。この杵機では、綴織によって幾何学模様のカーペットが織られていた。経糸には木綿糸、綴織の模様を織り出すための緯糸には市販の色とりどりの毛糸が使用されていた。このようなカーペットは、自家用とする場合もあるが、その多くは現金収入を得るための販売用として織られているということで、調査時に織られていたカーペットも販売用のカーペットであった。

UFF-1-a 構造図





UFF-1-1 全景



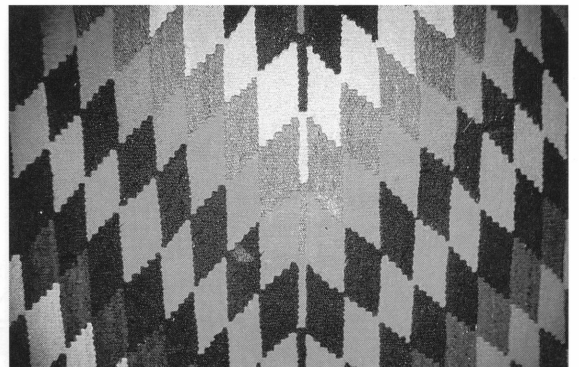
UFF-1-2 緯打具による緯糸の打ち込み



UFF-1-4 製織された綴織物 (1)



UFF-1-3 指による経糸のすくい取り作業



UFF-1-5 製織された綴織物 (2)